



おくもと てつや 議員
奥本 哲也

救命救急対策

軽四の救急車 導入を 箱バンと2台で対応中

問 当町には、まだ救急車両が入れない、通ることができない狭い道路がかなりある。
日々の救急対応で被害者ゼロを目指すべきと考

える。狭い地区の住民の不安感を取り除くためにも、狭い道に対応した軽四自動車の救急車を導入できないか。

答 徳廣 情報防災課長

救急車両に高度の救急資機材を積載し、高度な救急対応が可能となることから、現在の救急車両は大型化されている。軽四救急車は狭い道への対応は大きな効果が期待できるが、処置を行うスペース、患者家族の同乗等を考えると今現在の救急車には及ばない。

現在は、軽四自動車（箱バン）を配備し、狭い道などの場合2台で出動し救急車が停止している場所までの対応措置を行っている。

軽四自動車の救急車であれば、より良い形にはなると思うが、今までと同じ2台運用とあまり変わらない状況と思う。
配備する効果が大きいとは言えず、費用を考えると現状では困難と思う。

そして狭い道の地区には、どのような方法で救急措置をするのが良いか地区と話し合いながら考えて行く。

漁業振興

放流事業の 計画は

安定的な
漁業活動を支援

問 昨年度、山口種苗センターからアマダイが不調に終わり放流できなかった。これからの沿岸漁業振興対策どうするのか、潜水漁業に対しても振興対策はないか。

答 今西 海洋森林課長

平成30年度は生産落ちの理由に稚魚の確保ができなかった。現在連絡調整を図っていて、11月から生産を開始すると聞いている。単価の高いアマダイは当町にとっても有望な魚種ととらえ、持続的な放流と水揚げの検証評価を行って、生産向上につなげたい。潜水漁業

者に対しては、平成25年から3年間県外からハマグリを4・5トン放流している。平成30年度の水揚げは463キロとつながっていない現状だが、当地域の海況環境はハマグリが適応していると考えられるので、県外での確保が可能か検討していく。また昨年度よりナマコの放流も行っており、環境調査を現在も行っている。今後資源管理のあり方、ルール作りを漁業者と協議していきたい。

人権対策

意識調査
どう活用する
啓発活動の推進
に役立てる

問 人権問題に対する意識調査がまとまり様々な課題が見えてきたと思うが、これからの人権啓発活動をどう取り組むのか

答 青木 地域住民課長
今回の調査結果から見

えて来たことは、これまでの町が積極的に取り組んできた同和問題に対する教育や啓発活動が十分であったか、町民一人ひとりの課題として浸透していったのかを考えさせられる結果となった。国が3年前、部落差別解消推進法を制定した訳はまだまだ部落差別が解消されていないということだ。一人でも多くの方が参加できる研修会のあり方など考えて行く。
人権意識が日々の行動や態度として現れるよう啓発活動に努めていく。



緊急時、救急車が侵入しにくい道路（上川口郷）